

1 活動名 「周防小にギフチョウとアサギマダラを乱舞させよう」

2 ねらい

- チョウの生態と自然環境との関わりについて学習することを通して、周防地区の豊かな自然を守り育てようとする地域の方々の思いを知り、地域の一員として自分たちにできることを考える。
- 地域の方と一緒に作業や交流学习を行うことを通して、ふるさと周防のよさを理解するとともに、周防を誇りに思う心情を育む。

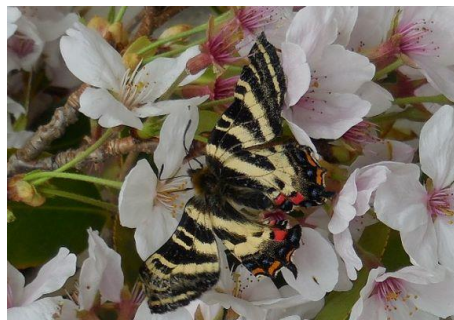
3 活動の概要

- 4月 シニアクラブの方が、フジバカマの挿し木用穂木を周防大島で採取し、穂木をポットで育苗し始める。
数頭のギフチョウが羽化したが、校地内で育てているサンヨウアオイへの産卵は確認できなかった。
- 6月 フジバカマの苗木を3年児童がシニアクラブ会員とともに花壇に植えた。
花壇等中庭の管理はシニアクラブの方が行い、3年生は毎朝花壇に水やりをした。また、総合的な学習の時間に3年生は、アサギマダラやギフチョウの生態について学び、シニアクラブの方にも紹介した。
- 10月 フジバカマの開花が中旬頃から始まり、約1ヶ月間、乱舞するアサギマダラを地域の方とともに鑑賞することができた。
- 12月 シニアクラブの方々による来年度に向けたフジバカマ花壇整備が行われた。

4 活動の内容

(1) 春の妖精「ギフチョウ」

本校では、一昨年度まで毎年始業式を行う時期にギフチョウの飼育、放蝶を行っていたが、気候変動等環境の変化によって羽化する時期が早くなり、昨年度は3月末に成虫となった。まさに春を告げるチョウである。さなぎで冬を越す間は、シニアクラブの方が飼育してくださっていたが、成虫は、1週間程度しか生きられず、児童が登校するまで飼育することは難しいため、数



【羽化したばかりのギフチョウ】

頭羽化したギフチョウは放蝶した。校地内の花壇に幼虫の食用となるサンヨウアオイを育てているので、成虫の産卵も期待したが、それはかなわなかった。飼育、放蝶の一連の活動を児童が体験できなかったことは非常に残念であったが、環境の変化が、人間の生活だけでなく、チョウの生態にも影響を及ぼしていることを学ぶ、生きた教材となった。

(2) 旅するチョウ「アサギマダラ」

秋に飛んでくるアサギマダラを学校でも観察できるよう、5年前から、中庭の花壇にフジバカマを植えている。昨年度は、苗の生育が悪く、アサギマダラは1頭も飛来しなかった。専門家の方に花壇を見てもらったところ、土の状態がよくないため、フジバカマが病気になっていると言われた。



【花壇に苗を植える3年生】

そこで、飛来を楽しみにし、チョウについて毎年学習している児童のために、シニアクラブの方々が、昨年秋に花壇の土を全て入れ替えてくださった。4月には周防大島から穂木を採取して苗を準備していただき、6月には3年児童とともに花壇へ植え替えた。花壇等中庭の管理は、シニアクラブの方々が行き、3年生は毎朝花壇に水やりをした。地域の方と飛来を期待する看板を設置し、世話を続けたおかげで、秋にフジバカマは大きく成長し、花を咲かせ始めた。10月中旬頃には見頃を迎え、それにあわせてたくさんのアサギマダラが乱舞するようになった。学校・地域ともに待ちに待ったアサギマダラの飛来で、優雅に飛ぶ姿は、毎日たくさんの人の目を楽しませた。昨年度の地域活性化事業助成金で購入した屋外用縁台に座って、ゆっくりと鑑賞する地域の方もおられた。

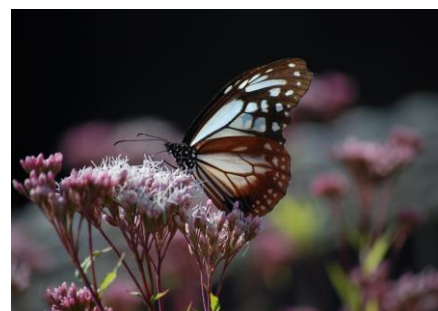


【縁台からのアサギマダラ鑑賞】

初めて学校に足を運んでくださった地域の方も多く、アサギマダラを通して地域とのつながりも広げることができた。

5 成果と今後の課題

今年度もコロナ禍で、地域の方と直接ふれあう学習活動の多くは、中止や変更を余儀なくされたが、校地内は、シニアクラブの方々のおかげで、様々な小さな命にふれることができる素晴らしい学習環境が整えられている。チョウだけでなく、学級園の花や植物、野菜、池のコイは、たくさんの学校応援団に支えられている。これからも地域とともに「ふるさと周防」を誇りに思う児童の育成に努めてきたい。



【飛来したアサギマダラ】